

家庭で育み、学校で学び、地域で鍛える



はじめに

山田町ではこれまで、町内の各実践区で「地域の特色を活かしながら地域全体で子供をはぐくむ」という理念に基づき「教育振興運動」を実践してきました。子供を中心とした幅広い世代が運動へ参加していますが、参加者の偏りや震災による地域の変化、また、学校再編という大きな転換期を迎え運動の見直しが必要になってきています。

平成 27 年 4 月に、文部科学大臣より中央教育審議会に対し、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」の諮問が行われました。それを受けて 12 月の答申で、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え地域と学校が連携・協働して行う「地域学校協働活動」と、それを推進する「地域学校協働本部」の整備について提言されました。平成 28 年 1 月には「地域学校協働活動」の全国的な推進のための『「次世代の学校・地域」創生プラン』が策定され、続く平成 29 年 3 月に社会教育法が改正されました。これにより、教育委員会が地域と学校との連携協力体制を整備することや「地域学校協働活動推進員」を委嘱できるとする規定が整備されました。

震災復興からコミュニティの再生へと進む町内において、一律の内容の取り組みではなく地域ごとに協議をしながら進めていくことが大切です。今後は、各地域の「教育振興運動」を柱に「地域学校協働活動」を推進し、参加者が当事者としての意識を持てる「地域とともにある学校づくり」と、地域への貢献が実感できる「学校を核とした地域づくり」に取り組んでまいります。

目次

はじめに

1 地域学校協働活動とは

- (1) 地域学校協働活動について
- (2) 地域学校協働本部について
- (3) 学校運営協議会について
- (4) 活動を推進するために

2 ボランティア編

- (1) 地域ボランティア活動を始める前に
- (2) ボランティアについて
- (3) 地域ボランティア活動の例
- (4) 気を付けていただきたい点

3 学校編

- (1) ボランティアとともに活動する前に
- (2) ボランティア活動への共通理解
- (3) ボランティアを受け入れる体制づくり
- (4) 気を付けていただきたい点

4 推進員・コーディネーター編

- (1) 推進員・コーディネーターについて
- (2) 推進員・コーディネーターの活動の流れ
- (3) 推進員・コーディネーターの活動について
- (4) 気を付けていただきたい点

便宜上、文中の表記は次のように統一させていただきます。

- | | | |
|------------------|---|----------|
| ○地域ボランティア活動をするひと | ⇒ | ボランティア |
| ○地域学校協働活動推進員 | ⇒ | 推進員 |
| ○地域学校支援コーディネーター | ⇒ | コーディネーター |

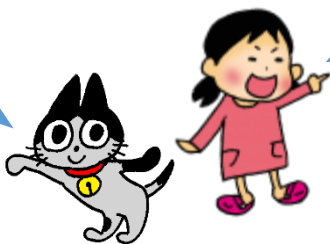


1 地域学校協働活動とは

(1) 地域学校協働活動について

「地域学校協働活動」とは、地域住民・保護者・民間企業・団体等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支える、「学校を核とした地域づくり」をめざす活動です。地域住民や保護者が学校でゲストティーチャーや読み聞かせを行い、学校と地域が環境美化や防災活動を通して関わりを持つことで、子供たちに地域への愛着を育むとともに地域全体の教育力向上にもつながります。

協働は、同じ目的や目標に向かって対等の立場で協力し共に働くこと！



そのためには、地域と学校で目的や目標を共有することが重要だね！

(2) 地域学校協働本部について

「地域学校協働本部」とは、従来の地域と学校の連携体制を基盤とし、より多くより幅広い層の地域住民・保護者・民間企業・団体等が参画し、「地域学校協働活動」を推進する体制です。「地域学校協働本部」には、地域と学校が連携・協働を円滑に行い、個別の活動の総合化とネットワークの形成へと発展させるために、「コーディネート機能」「多様な活動」「継続的な活動」の3つの要素が必要となります。

【地域学校協働本部に必要な3要素】

コーディネート機能

- ・地域住民等や学校関係者との連絡調整、活動の企画・調整を担う役割



多様な活動

- ・より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施



継続的な活動

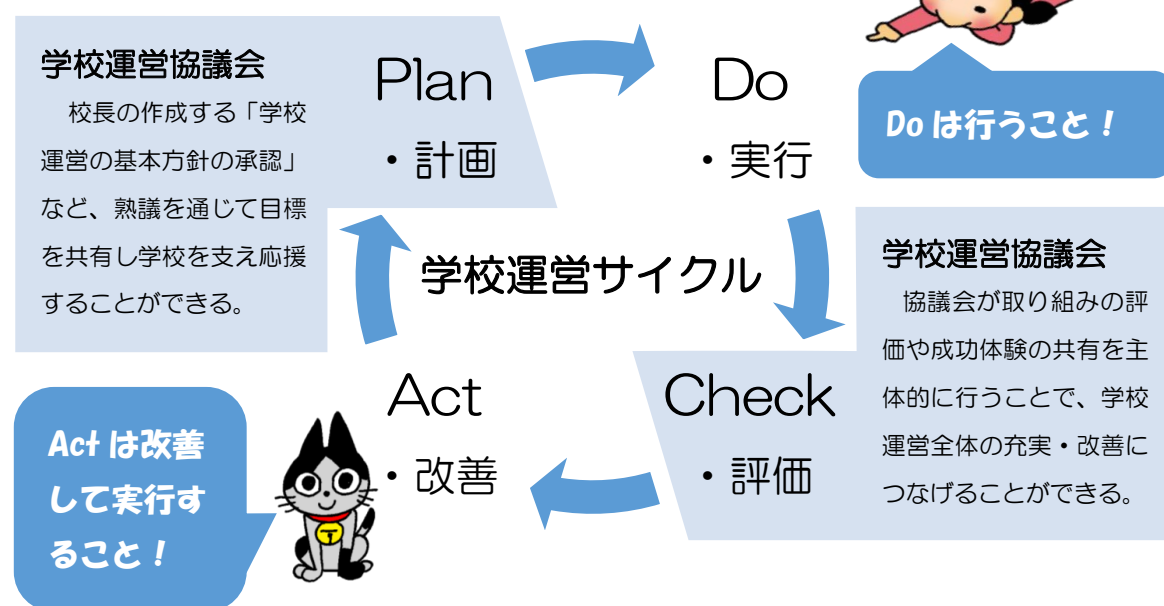
- ・地域学校協働活動の継続的・安定的実施



(3) 学校運営協議会について

「学校運営協議会」とは、学校運営に関して地域住民や保護者などを交えた幅広い関係者で協議し、「地域とともにある学校づくり」を進める体制です。地域が教育の当事者となり、学校運営や子供たちの豊かな成長を支え、特色ある学校づくりを進めることができます。また、「学校運営協議会」を設置した学校を「コミュニティ・スクール」といいます。

【学校運営協議会を活用した学校運営サイクル】



(4) 活動を推進するために

町では未来の山田町を担う子供の育成に当たって「家庭で育み、学校で学び、地域で鍛える」というスローガンを掲げ、子供たちが活力に溢れ、夢と希望を持ち、安心して生活が送れるよう取り組んでいます。今後は従来の取り組みを継続しつつも、子供たちの育ちに地域が関わる仕組み「地域学校協働活動」を進め、「学校運営協議会」と連携しつつ子供の学びと地域の教育力の向上を図っていきます。



2 ボランティア編

(1) 地域ボランティア活動を始める前に

「子供のために何かしたい」、「自分の経験や知識を生かしたい」と思ったことはありませんか。「地域ボランティア活動」とは、学校の教育や環境整備などを支援する活動で、元気な地域づくりにもつながります。誰でも気軽に参加できる活動から、専門的な知識や技能を生かした活動まで様々な活動があります。「やってみたい」「役に立ちたい」という思いを生かし「できる人」「できる時に」「できること」から始めることができます。

地域ボランティア活動を始めたいと思ったら、町教育委員会や学校、コーディネーターにご相談ください。



(2) ボランティアについて

ボランティアとは、自分の持つ知識・技術・経験・時間などを社会に役立てる活動です。強制や義務ではなく、自分の意志で無理をせず取り組むことが大切です。子供や教職員、地域の仲間と一緒に活動することで元気をもらえます。元気な地域住民が増えることで地域全体が元気になり、地域の活性化と地域全体の教育力の向上につながることも期待されます。

【ボランティアの4原則】

自発性の原則

- ・ 公共機関や他人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行われるものであるという原則

公共性の原則

- ・ 活動が特定の人たちの単なる私益につながるのではなく、社会や公共の福祉に役立つべきであるという原則

無償性の原則

- ・ 活動の見返りとして金銭的報酬など、物的利益を期待すべきではないという原則

先駆性の原則

- ・ 活動が画一的に取り組まれているだけではなく、社会の発展や開発をリードする先駆的な活動であるという原則

(3) 地域ボランティア活動の例

地域ボランティア活動は専門的なものから一般的なものまで様々あります。

ゲストティーチャー型

- ・ 地域の歴史学習
- ・ 特産物を活用した学習
- ・ 伝承遊びの講師

施設メンテナー型

- ・ 校舎や設備の維持管理
- ・ 学校田の手入れ
- ・ 植木の剪定



学習アシスタント型

- ・ 本の読み聞かせ
- ・ 朝のあいさつ運動
- ・ 校外学習の引率



環境サポーター型

- ・ 花壇の整理や草取り
- ・ 校舎の美化活動
- ・ 図書の整理

(4) 気を付けていただきたい点

ボランティア活動の際は、以下の点に気をつけましょう。

- ①活動するときは学校の実態に応じて柔軟に行動しましょう。

学校にはそれぞれの教育目標や年間の教育計画があります。また、学校によって学校生活のきまりには違いがあります。

- ②活動に入る前に確認・相談をしましょう。

活動に必要な道具や材料は打ち合わせで確認しましょう。また、活動に対して保険に加入しているかどうか確認しておきましょう。

- ③子供や先生のプライバシーを守りましょう。

ボランティアには「守秘義務」があります。活動の中で知り得た情報はむやみに口外してはいけません。

- ④子供の人権や個人差に配慮しましょう。

適正な言葉をつかい、公平に接する必要があります。もちろん体罰は法律で禁止されています。

- ⑤子供の安全を心がけましょう。

子供の安全に配慮した活動を常に心がけます。子供がけがや事故にあった場合は、速やかに近くの教職員を呼び、対応することが大切です。

- ⑥活動をふりかえりましょう。

今後の活動をより充実させるために、活動内容や感想などを記録に残しておきましょう。

3 学校編

(1) ボランティアとともに活動する前に

子供たちが学びを深め元気に安心して学校生活を過ごすために、ボランティアの協力・支援を受けてみませんか。普段の授業や課外活動、環境美化などボランティアが活躍する場面は様々です。改訂された学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念の基、学校と社会が連携・協働することが示されています。ボランティア活動は学校と地域がその理念を共有し、連携・協働するチャンスでもあります。

ボランティア活動を考えているなら、学校を訪問しているコーディネーターに相談ください。



コーディネーターには、学校とボランティアをつなぐ役割があるよ！

(2) ボランティア活動への共通理解

ボランティア活動の意義や目的について、教育に関わる全ての人で共通理解を持てるように心がけましょう。

全教職員で共通理解を

- ・ボランティア活動について、全教職員で共通理解を持ちましょう。全教職員が共通理解のもとに対応することで、ボランティアも安心して活動に取り組むことができます。

子供たちに説明を

- ・何のためにボランティアが来校しているのかを子供たちに説明し、学校生活が地域の方々にも支えられていることを伝えましょう。

保護者にも周知を

- ・ボランティアの協力で子供たちが学びを深め、多くの体験ができることを保護者にも知らせましょう。

学校運営協議会との連携を

- ・学校運営協議会でボランティア活動についての協議や情報交換を行い体制づくりに努めましょう。

（３）ボランティアを受け入れる体制づくり

ボランティアの受け入れに向けて学校の体制を調えましょう。

居場所をつくろう

・ボランティアが集まれる場所があれば、活動の準備や後片付け、情報交換などにも便利です。余裕教室の利用や職員室にスペースを設けている例もあります。



情報を発信しよう

・学校が必要とするボランティアや実際の活動の様子を発信し、家庭や地域に学校が必要としている内容を理解してもらいましょう。

行事に招待しよう

・ボランティアに学校行事へ参加してもらいましょう。子供たちの様子や学校への理解が深まれば、スムーズな活動にもつながります。



座って休む場所がある
といいね！



学校報で十分だね！

（４）気を付けていただきたい点

ボランティアを受け入れる際は、以下の点に気をつけましょう。

①ボランティアとのパートナーシップを築きましょう。

初めてボランティア活動を行う人は不安でいっぱいです。声掛けや丁寧な説明を心がけましょう。

②事前の打ち合わせを持ちましょう。

活動のねらいや子供たちの様子、当日学校に着いてからの動きや活動場所、準備するものや役割分担についてもしっかりと伝えましょう。

③ボランティア保険について確認しておきましょう。

ボランティア活動を安心して行ってもらうために、保険について確認しておきましょう。

④活動時の感想を伝えましょう。

ボランティアに来られる方の多くは、自分自身も学び向上したいと思っています。さらなる活動の活力になるように感想やアドバイスを伝えるよう心がけましょう。

4 推進員・コーディネーター編

(1) 推進員・コーディネーターについて

学校と地域やボランティアをつなぐ推進員・コーディネーターは、学校の希望や困っていること、地域の思いを受け止めて連携・協働という関係の中で一緒に活動をつくり調整する役割を担っています。推進員・コーディネーターがいることで教職員やボランティアの戸惑いが減り、活動を円滑に進めることができます。

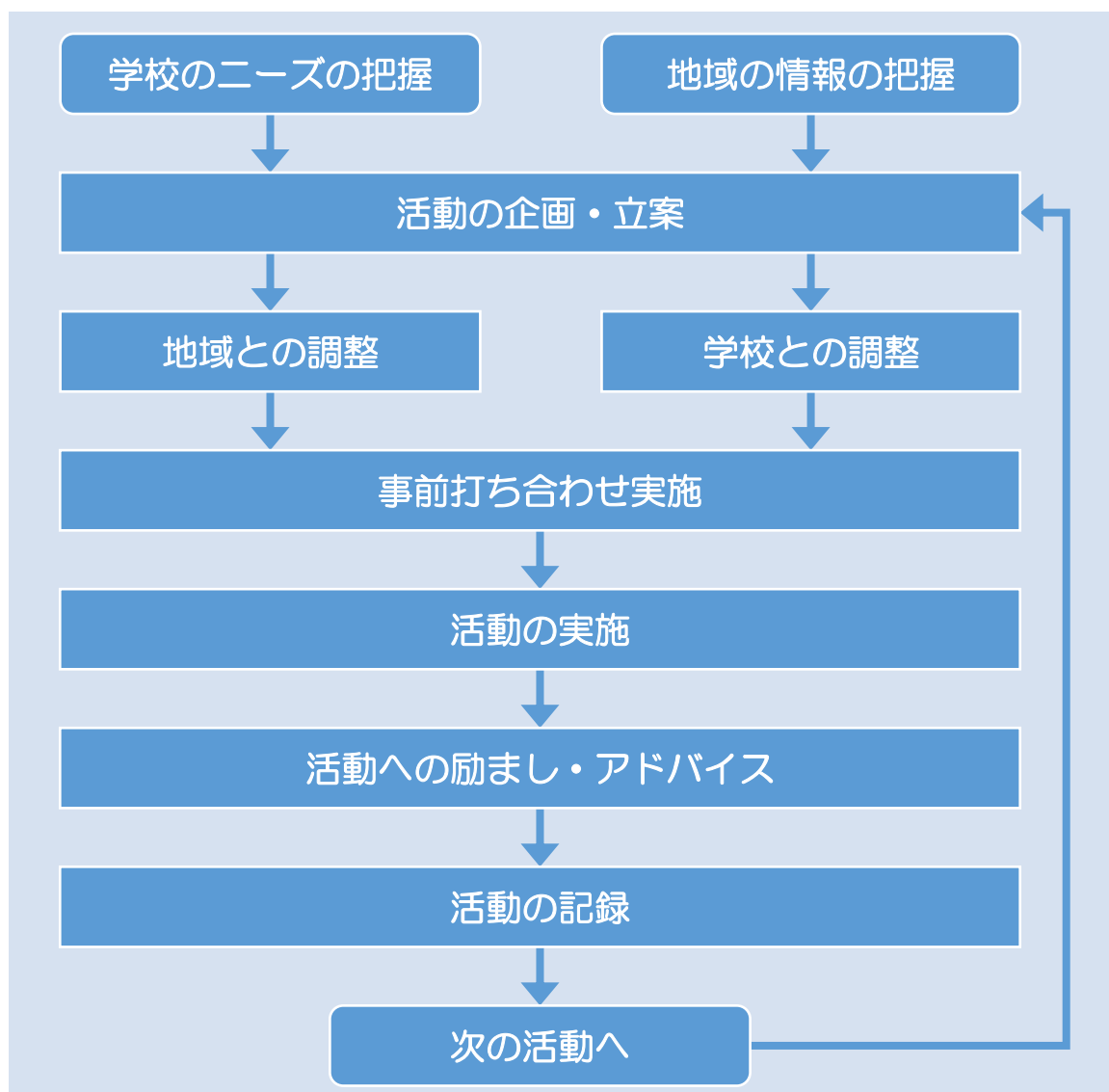
学校や地域の情報が大切だね！



学校や地域の広報紙やホームページを知っていると役立つな！

(2) 推進員・コーディネーターの活動の流れ

推進員・コーディネーターの活動には流れがあります。



(3) 推進員・コーディネーターの活動について

推進員・コーディネーターの活動には段階があります。

受けとめる

- ・ボランティアの協力がほしいという学校のニーズ、ボランティア活動がしたいという地域の思いを受け止めます。

知らせる・つなぐ

- ・学校が必要とするボランティアの情報、地域ができるボランティア活動についてを紹介し調整します。

支える

- ・活動の前後で打ち合わせを行い、学校やボランティアの相談を受けたり活動の感想を聞きます。

ふりかえる

- ・活動後は必ずふりかえりを行い、学校と地域が情報を共有し次の活動へつなげます。



(4) 気を付けていただきたい点

活動の際は、以下の点に気をつけましょう。

①教職員とボランティアが話せる雰囲気をつくりましょう。

活動前の打ち合わせでは、教職員とボランティアがなごやかな雰囲気ですれぞれの思いを語り合うことができるように心がけましょう。

②推進員・コーディネーターも一緒に活動をししましょう。

一緒に活動することで、それぞれの思いを知ることができます。なるべく、活動をともにすることを心がけていきましょう。

③次の活動につながるよう、活動後には声かけをししましょう。

ボランティアが自信を持ち、次の活動がより充実したものになるように、良かったことや子供の感想などを伝えるよう心がけましょう。

④問題点は一緒に解決できるよう、両者にきちんと伝えましょう。

よりよい活動とするために、問題点や課題などはきちんとボランティアと教職員の両者に伝え、解決を図りましょう。

⑤知り合いを増やしていくことを心がけましょう。

地域や子供のために活動して人たちや団体と、より良い関係をつくるよう努めます。そうすることで、次の活動にもつながりやすくなります。



地域学校協働活動ハンドブック

家庭で育み、学校で学び、地域で鍛える

令和2年5月

山田町教育委員会 〒 028-1392 山田町八幡町3番20号

TEL 0193-82-3111